

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.24 2017年 秋号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い②④「オオタカ」が指定解除になったって？①
蜂蜜の森から②「ハチミツの謎」

「アズマモグラ」酒田市 撮影：長船裕紀

バードウォッチングへの誘い②④

「オオタカ」が指定解除になったって？①

昔から日本では単に「鷹」といえばオオタカを指したほど猛禽類の代表ともいえる種オオタカ。主に森林に生息し、最近では都市公園で暮らす個体がいることもわかってきました。そのオオタカが2017年9月21日に「国内希少野生動植物種の指定解除」となり、ニュースなどでも大きく報じられました。今後のオオタカに私たちバードウォッチャーは注目していかなければなりません。今回と次回2回にわたってお伝えしていきます。(参考文献:日本のワシタカ類 環境省レッドデータブック)



和名 オオタカ
学名 *Accipiter gentilis*
翼開長 106～131cm
体長 47～57cm
体重 550～1000g



オオタカの生息数が増えている？

- 1991年 環境庁(当時) 第一次レッドリストにて「危急種」となる。当時の推定生息個体数は300羽～490羽。
- 1993年 「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」が施行され、「国内希少野生動植物種」に指定される。
- 1998年 環境省 第二次レッドリストにて「絶滅危惧Ⅱ類」となる。1996年の環境庁によるアンケート調査では1000羽以上の推定生息個体数であるとされている。
- 2006年 環境省 第三次レッドリストにて「準絶滅危惧種」となる。2005年の環境省によるアンケート調査では1,824～2,240羽の推定生息個体数とされている。
- 2012年 環境省 第四次レッドリストにて、前回に引き続き「準絶滅危惧種」となる。

絶滅	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
ダイウトノスリ	カンムリワシ	イヌワシ クマタカ チュウヒ	ハヤブサ サシバ オオタカ <small>(05年まで)</small> オジロワシ オオワシ	ミサゴ ハイタカ ハチクマ	シマハヤブサ
	絶滅危惧種	リュウキュウツミ オガサワラノスリ		オオタカ <small>環境省レッドリスト '06年版の改訂から</small>	

ワシ・タカ・ハヤブサのレッドリストランク(環境省2012年を基に作成)

オオタカを「国内希少野生動植物種」に指定してきた

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」

第一条 この法律は～絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

第四条 (三)この法律において「国内希少野生動植物種」とは、その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるものをいう。

環境省第三次、第四次レッドリストにおいて、「準絶滅危惧種」にランクされたことから、上記の「種の保存法」の条文にもある通り、「絶滅危惧種」に指定されているものを「国内希少野生動植物種」とする該当要件に、オオタカは当てはまらなくなっており、指定解除に向けた議論が行われていました。

今回は、オオタカが国内希少野生動植物種の指定解除にあたっての「Q&A」(課題と対応)についてお知らせします。

庄内の動物情報 二一

今年の鳥海山の初冠雪は10月7日で、鶴岡市にある下池へのハクチョウの初飛来は10月4日でした。これらはほぼ例年通りですが、山形県でのアキアカネの初確認は9月に入ってからで、平年に比べ20日も遅かったようです。少しずつですが季節がずれている？ほかの地域ではどうだったのか環境変化等にお気づきになりましたらmoukin@raptor-c.comまで投稿ください。



2017/7/29 「オオミズアオ」 鶴岡市
日本のガが全部こんなに美しければ、ガも違った見方がされていたんでしょうね。チョウもガも同じ仲間だということを知って欲しいです。
撮影: ナッシーくん



2017/8/25 「ヤマドリ」酒田市
「ふっ！油断したな！私が地上だけを歩いていると思ったら大間違いだぜ！こ〜んなところにだって登れるのさ！わかったか！」
撮影: 齋藤利孝様



2017/8/26 「イナビタキ」 鶴岡市
出た！山形県初確認となった小鳥です。山形県の鳥業界の歴史に新たな一行が加えられることとなりました。県民の皆様おめでとうございます。撮影: 渡会様



2017/8/31 「ジュシホシシビナガハムシ」鶴岡市
網戸にテントウムシ？なんか細長いので調べてみたら、アスパラガスの害虫だったとさ。星の数はナナホシテントウの倍もある、舌の肥えた贅沢な虫！撮影: なおちゃん



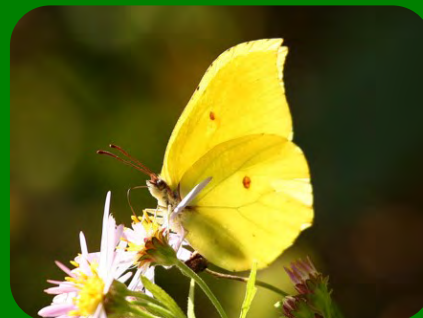
2017/9/16 「ハッチョウトンボ」 遊佐町
アップで写っていますが、実は1円玉と同じ大きさのトンボ。その存在は千金に値します！
撮影: 小池侑多様



2017/10/9 「コゲラ」 鶴岡市
日本で一番小さなキツツキの仲間。尾羽をしっかりと幹につけてバランスをとっています。絶対固いなあの尾羽！
撮影: なおちゃん



2017/10/13 「シロマダラ」酒田市
ぎゃ〜！室内にヘビがいた！よく見ると「幻」といわれる超珍しいヘビでした。幻だけに今回は見なかったことにしてあげよう……。
撮影: 宇佐美信一様



2017/10/17 「スジボソヤマキチョウ」鶴岡市
前羽の端っこがとがっているキチョウこそがスジボソヤマキチョウ。ただのヤマキチョウと似ています。山形県内でヤマキチョウを見つけたら連絡ください。撮影: 宮川道雄様



2017/10/24 「アカアシチョウゲンボウ」 鶴岡市
今年も台風の被害者が出た模様。普段見かけるチョウゲンボウとは雰囲気違いますね。また来てねとはいいいくいますが、一度でいいから見てみたい。撮影: 佐々木真一様



番外編2017/8/20 「トビ」岩手県
トビも流し撮りで撮影すると、疾走感があってカッコいいですね！全体の羽が所々伸長中で判断に迷うこともありますので注意！
撮影: 村井敬一様



番外編2017/10/8 「オニスバ」 神奈川県
シェービングフォームが落ちていたと思いましたが、実はこれキノコなんですって！はんぺんのようにおいしいのだから！
撮影: 「こまたん」金子典芳様



番外編2017/10/9 「ツミ」 神奈川県
最も小さい猛禽類。かつては幻ともいわれたのですが、都市部でも見られるようになったとか。お前は何も悪くない。
撮影: 「こまたん」上野尚博様

イベント開催報告

○夏休み体験プログラム

7月24日(月)～8月20日(日)までの約1か月間にわたって、毎年恒例の「夏休み体験プログラム」を開催。新プログラム、猛禽類等の羽を使ったインディアンのお守り「ドリームキャッチャー作り」で、輪の中のクモの巣状の糸の編み方が難しく、最初は戸惑う参加者も多かったですが、次第にコツをつかみ、完成するとその仕上がりにとっても満足していました。ドリームキャッチャーは老若男女問わず人気がありました。今年の参加者数は過去最多となり、多くの参加者でにぎわいました。参加、協力いただいた皆さんありがとうございました。



○シンポジウム「松森胤保が見た自然～両羽博物図譜に見る庄内の昔～」

9月2日(土)は、「松森胤保が見た自然」と題し、松森胤保が描いた江戸～明治時代の図譜「両羽博物図譜」を使って、現代の酒田市の環境を観察しようという挑戦的な内容で午前中に観察会を開催。講師は地方紙で「両羽博物図譜を読み解く」を連載し、科学ジャーナリストとしても活躍する永幡嘉之さんと、希少種保護増殖等専門員の長船裕紀さんです。

当日は国指定最上川河口鳥獣保護区内にある飯森山公園周辺を散策。野鳥観察や昆虫採集をしながら現在の酒田市の自然環境と、両羽博物図譜に描かれた生き物たちを比較することで、当時と現在の環境の違いや、先人の観察眼の鋭さについて学習しました。山頂で、講師の永幡さんから図譜に描かれたトンボと今日見られたトンボを比較し、昔の農法と現在の農法が違ってきたことで、当時いたはずのトンボたちが今ではほとんど見ることができなくなってしまったお話はとても印象的でした。最上川にコンクリートの橋がまだかかっていない、ビルもない江戸時代の酒田市をわずかながら想像することができたのではないのでしょうか。



午後からは出羽遊心館に移動し、永幡さんと長船さんに加え、松森胤保から数えて5代目に当たる松森昌保さんも参加し、シンポジウムを開催。侍としての松森胤保の貴重なお話なども聞くことができました。参加してくれた皆さんありがとうございました。

観察できた生物:トビ、ノスリ、ハイタカ、チョウゲンボウ、カワセミ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、ヒヨドリ、スズメ、シジュウカラ、ツバメ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ムクドリ、カルガモ、ハクセキレイ、アジアイトトンボ、オニヤンマ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ゴマダラチョウ、アカタテハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、アオスジアゲハ、イチモンジセセリ、モンシロチョウ、モンキチョウ、クロアゲハ、コバネイナゴ、ハラオカメコオロギ、オオヒラタシデムシ、ゴミムシ、クロクサアリ、セイヨウミツバチ、フタオビドロバチ、ナガコガネグモ、アメリカザリガニ、アマガエル、タモロコ、フナ類、キタノメダカ 計47種

○観察会「秋の渡りを見よう！」

9月23日(土)は、毎年恒例の猛禽類の秋の渡りを見る観察会を開催しました。講師は猛禽類保護ネットワークの伊藤智樹さんです。

当日の天気は曇り、観察会場は標高1000mを超える場所で、風が強く気温も低めでしたが、幸いにも観察会の時間中は雨に降られることなく進めることができました。

天候の影響もあってか猛禽類も含め鳥の出現はまばらでしたが、ハチクマやノスリが確かに南にわたっていつている様子を観察することができました。講師より渡りのメカニズムや、渡る猛禽類の生態に加え、インターンの学生による解説などもありました。講師の伊藤さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。

この日見られた鳥:ハチクマ(23)、ノスリ(15)、ツミ(22)、ハヤブサ、トビ(3)ミサゴ(4)、チゴハヤブサ(3)、ハイタカ(5)、イヌワシ(2)、ヒヨドリ、ヤマガラハシブトガラス、ハシボソガラス、アマツバメ、イワツバメ、カケス、キジバト、ウグイス、計18種 うち猛禽類9種



チゴハヤブサ(下) 撮影:長船裕紀

○観察会「イヌワシに見る庄内のみらい」

10月7日(土)に「イヌワシに見る庄内のみらい」と題し観察会を開催しました。講師は鳥海山ワシタカ研究会より佐藤淳志さん、そして今回は特別講師として、楽天株式会社ECカンパニーマーケティング部CSR課より眞々部貴之さん、ジュリアン・ボワツソーさん、さらに山形大学林田研究室よりご協力いただきました。

当日は残念ながら雨天のため、室内での講義を中心とした活動となりました。眞々部さんからは、プロ野球チーム・楽天ゴールデンイーグルスのマスコットキャラクターはイヌワシであることから、CSRでイヌワシを守るための事業を始めたきっかけや、楽天の森プロジェクトの全国的な取り組みをお話していただき、佐藤さんからはこれまでの鳥海山でのイヌワシ保護の経緯についてお話をしていただきました。雨の中ではありませんでしたが、イヌワシの生息環境を肌で感じてもらうということで、バスに乗ってイヌワシの生息地まで行ってみました。参加者からはイヌワシを「みらい」につなげるため、企業や大学、団体の産学官連携による先進的な取り組みについて知っていただくことができました。

今回のイベントは夏に開催した「鳥海山昆虫ラボ！」と「松森胤保の見た自然」そして今回の「イヌワシに見る庄内のみらい」の3部構成で「現在・過去・みらい」の環境を学ぶ観察会として企画しました。参加、協力していただいた皆さんありがとうございました。



楽天CSR課より眞々部貴之氏



参加、協力していただいた皆さん

○東北公益文科大学「公翔祭」

10月21日(土)～22日(日)にわたって酒田市の東北公益文科大学「公翔祭」に4年ぶりに出展させていただきました。今回は大学を含むエリアに設定されている国指定最上川河口鳥獣保護区の魅力を伝える写真コーナーの他、イヌワシの生態や現状について知ってもらえる展示としました。また、猛禽類保護センターのある、酒田市日向地区で活動している学生さんとのコラボレーション企画でスタンプラリーも開催しました。写真や展示も熱心に見て行ってくれて、最上川河口鳥獣保護区の鳥たちと最上川の魅力的な環境を、学生や地域の方に知っていただくことができました。来場してくれた皆さんありがとうございました。



○やまがた環境展2017

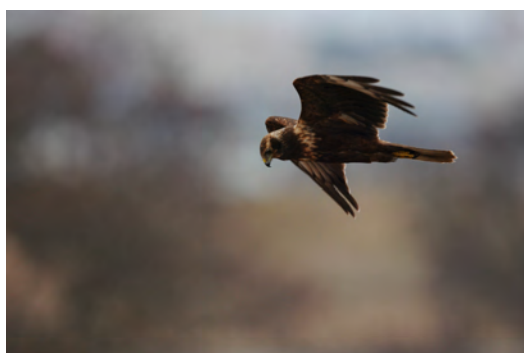
10月28日(土)～29日(日)にわたり「やまがた環境展2017」が開催され、環境を考える展示ゾーンにブース出展しました。展示内容はイヌワシの生態を伝える構成とし、その展示物の中に答えが隠されているクイズラリーを実施し、全問正解者にはオリジナル缶バッジをプレゼントしました。会場内にはワッシーくんも登場し、環境展を盛り上げました。来場者の中には「一番楽しかった！」といった感想も。楽しく遊びながら学んでもらえたのではないかと思います。来場してくれた皆さんありがとうございました。



イベント情報コーナー

観察会「葦原の猛禽 チュウヒ」

期 日 平成29年12月2日(土)
時 間 13:00～16:00
場 所 酒田市内 ※詳細は参加者にお知らせします。
参加費 一人300円(保険代、資料代)
講 師 築川堅治氏(日本野鳥の会山形県支部長)
持ち物 双眼鏡(貸出可)、飲み物、懐中電灯 ※防寒着着用
申込み 猛禽類保護センター TEL 0234-64-4681
E-mail:moukin@raptor-c.com





蜂蜜の森から 第2回「ハチミツの謎」

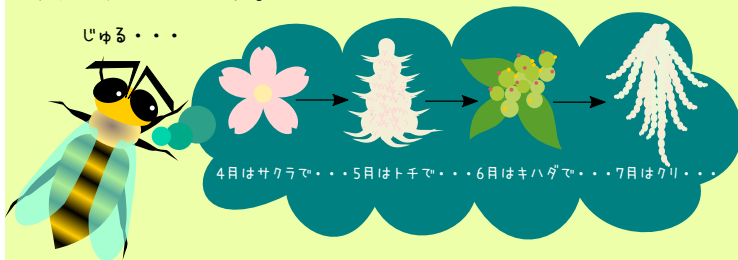
山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第2回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？

「野山には様々な花が咲くのに、どうしてハチミツは花の種類ごとに販売できるの？」これは最も質問されることの一つです。たしかに、私の実家でも、リンゴ蜜、トチ蜜、キハダ蜜、ニセアカシヤ蜜と銘柄ごとに瓶詰めして販売しています。味に癖のあるクリ蜜も依頼があると収穫します。不思議に思われますが、ほぼ間違いなくそのハチミツなのです。

その理由に、ミツバチの持っている「限定訪花性」という習性がまずあげられます。尻振りダンスを踊って仲間に蜜のありかを教え、その日に最も蜜を出している植物から集中して蜜を集めるのです。植物にとっては、他の花粉を付けられずにすむ利点があります。

それから採蜜場所です。外来種のニセアカシヤもたくさん蜜を出しますが、「奥山」にトチの花が咲いているときに「里山」で咲きます。場所が違うので混ざらないのです。

そして順番です。蜜をたくさん出してくれる春から初夏にかけての樹木は、ヤマザクラ・イタヤカエド→トチ→キハダ→クリと順番に花を咲かすのです。実家ではリンゴ園で花粉交配を終えると、奥山に巣箱を移動し、大急ぎでリンゴの蜜を採蜜し、巣箱を空にします。まもなくトチが咲き始め、ここから順番に銘柄ごとの採蜜が始まるのです。



おかげで、おいしいキハダ蜜にクリ蜜が混ざることはありません。私は近頃まで、この順番に咲くことについて奇跡のような偶然だと思っていた。しかし、それらは偶然ではなく必然だったのです。おそらく植物たちは、あえて順番に咲いているのです。

トチは日本の在来植物では最も蜜を出す量が多い第1位の木です。100年もたった木なら1日一斗(およそ20kg)の蜜を出すと云われます。他の木たちは、ミ

ツバチに来てもらえなくなってしまうので、あえてトチとは一緒に咲かないことを選んできたのでしょう。

整理して考えると、まずヤマザクラやイタヤカエドはきっと「まだ寒いけど、トチが咲く前に咲いてしまおう」と思って、葉っぱを出すこともそこそこに花を咲かせるのです。

そしていよいよトチが花を咲かせますが、ヤマザクラやイタヤカエドが咲き終わった後、一週間ほど花を咲かせません。きっとこれはいったんミツバチたちのお腹をすかせておいて、よく働いてもらうための作戦です。

蜜を出す量が第2位のキハダは、トチが咲いているころ、咲きたくて咲きたくてウズウズしています。でもやはり我慢しているのです。そして受粉を終えたトチの花が赤っぽくなるのを見届けると、ようやく安心して黄色いつぼみを膨らませます。そしてキハダが終わると第3位の栗が「待っていました！」とばかりに白いフサフサの花を一気に咲かせ始めます。

クリが終わると、そこからの植物たちは、重なり合いながら秋まで途切れることなく花を咲かせます。蜜の量はどれも少ないため採蜜は9月にまとめて行い「百花蜜」と表示して売られます。

近頃気づいたことがもう一つあります。それは、もし春先にすべての植物が一斉に咲いてしまったら、ミツバチたちは他の季節を生きられなくなってしまうということです。植物たちは秋まで途切れることなく順番に花を咲かせることにより、ミツバチたちを育てているのです。植物とミツバチの持ちつ持たれつに関係に改めて感心させられました。(文・安藤竜二)



安藤竜二

1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうそく製造に着手。ハチ蜜の森キャンダル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』（朝日町エコミュージアム研究会発行）



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

雪が降ってきてしまいました。酉年ももう終わりか・・・。(本)

事務局

今年の観察会は、募集開始からすぐに定員になりキャンセル待ちも。でも天気・・・。12月の観察会はどうか晴れますように！(村)

希少種保護増殖等専門員

2018年シーズン到来！イヌワシの繁殖活動が盛んになってきました。今週末も調査！！(長)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 11月～12月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・12月の火曜日、12月29日～1月3日

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

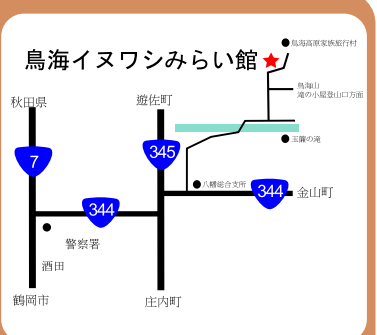
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.24 秋号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)